



平成29年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成28年11月11日

上場取引所 名

上場会社名 中部水産株式会社
コード番号 8145 URL <http://www.nagova-chusui.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉川 輝喜

問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員 (氏名) 鈴木 祥司

四半期報告書提出予定日 平成28年11月11日 配当支払開始予定日

TEL 052-683-3001
平成28年12月8日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第2四半期の業績(平成28年4月1日～平成28年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第2四半期	19,722	△2.0	33	△41.9	95	△20.3	65	△4.6
28年3月期第2四半期	20,124	1.1	57	34.0	120	△6.1	69	△23.0

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第2四半期	3.69	—
28年3月期第2四半期	3.87	—

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%		
29年3月期第2四半期	14,905		12,388		83.1	
28年3月期	14,544		12,441		85.5	

(参考) 自己資本 29年3月期第2四半期 12,388百万円 28年3月期 12,441百万円

2. 配当の状況

	年間配当金					合計
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末		
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	4.00	—	5.00	9.00	
29年3月期	—	4.00	—	—	—	
29年3月期(予想)	—	—	—	4.00	8.00	

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

28年3月期期末配当金の内訳 普通配当 4円00銭 記念配当 1円00銭

3. 平成29年3月期の業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	41,000	△1.6	140	△23.6	260	△13.6	170	△2.2	9.54

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	29年3月期2Q	19,269,000 株	28年3月期	19,269,000 株
② 期末自己株式数	29年3月期2Q	1,454,675 株	28年3月期	1,454,219 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	29年3月期2Q	17,814,490 株	28年3月期2Q	17,816,216 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1.当四半期決算に関する定性的情報 (3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
(3) 追加情報	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第2四半期累計期間	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策や日銀による金融緩和により、企業収益や雇用環境の緩やかな改善が見られました。しかしながら、中国経済をはじめとする新興国の景気減速や円高の進行による影響が懸念され、景気の先行きについては依然として不透明な状況が続いております。

当業界におきましては、天候不順による水産物の不安定な漁獲状況や水産資源の減少に加えて、市場外流通との競争激化により市場物流の低下傾向が続いており、引き続き厳しい事業環境となりました。

このような外部環境のもとで、当社は、変化する市場や激化する販売競争に対応した集荷、営業活動を積極的に推し進めるとともに、業績の向上と経営体質の強化のための諸施策に取り組んでまいりました。

この結果、売上高は、卸売部門が販売単価は上昇したものの、取扱数量の減少により減収となり、飼料工場部門が養鰻業者の需要減で大幅な減収となるなど、全体で19,722百万円(前年同四半期比2.0%減)となりました。経常利益は、管理費が若干減少しましたが、売上高の減少に伴う売上総利益の減少により95百万円(前年同四半期比20.3%減)となり、四半期純利益は、65百万円(前年同四半期比4.6%減)となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

(卸売部門)

鮮魚は、天然ブリが漁に恵まれ入荷増となり、生鮮インドマグロ、メジ、養殖サーモン、国内の生鮮キハダが順調な入荷で売上増となりましたが、サンマ、サバ、スルメイカ、ヤリイカが不漁による入荷減、養殖ヒラメ、ホタテ貝柱が浜値高で入荷減となり、全体で減収となりました。

冷凍魚は、冷ギンダラ、冷スルメイカ、チリ産ギンサケが高値により低調な荷動きとなり、ブラックタイガーエビが搬入減により売上減となりましたが、冷タラバガニが加工用中心に伸長し、生アトランティックサーモンが回転寿司店、量販店向けに好調な荷動きで売上を伸ばし、全体で増収となりました。

塩干魚は、イクラ製品が量販店や外食産業との取組みで販売量を伸ばし、納豆製品が値上げで売上増となりましたが、竹輪、半平類が特売用の低価格商品の搬入減で販売が振わず、小女子、田作りの不漁、アジ、サンマ、ホッケの干物類が原料不足で取扱減少となるなど、全体で減収となりました。

この結果、売上高は18,483百万円(前年同四半期比1.1%減)、営業利益は158百万円(前年同四半期比8.9%減)となりました。

(飼料工場部門)

養鰻用飼料は、国内向け飼料がウナギの成育遅れで需要減となり、輸出用飼料が価格競争の激化により販売数量が減少し、水産向け魚粉が販売数量は伸長したものの、原料価格の下落による値下げで売上減となり、全体で減収となりました。

この結果、売上高は645百万円(前年同四半期比27.5%減)、営業利益は27百万円(前年同四半期比47.3%減)となりました。

(食品加工場部門)

ピロ商品がアイテムの減少で売上減となりましたが、切イカが新規販売先の開拓で売上を伸ばし、量販店向けのイクラ、数の子の委託加工の増加により、増収となりました。

この結果、売上高は231百万円(前年同四半期比21.8%増)、営業損失は15百万円(前年同四半期は営業損失は23百万円)となりました。

(冷蔵工場部門)

塩鮭鱒、サンマ及び外国貨物の在庫は減少しましたが、ホタテ製品、チリ産銀サケフィーレ、コンビニ向けや給食関係の冷凍食品の順調な入荷で取扱増となり増収となりました。この結果、売上高は306百万円(前年同四半期比3.4%増)、営業利益は35百万円(前年同四半期比25.3%増)となりました。

(不動産賃貸部門)

売上高は55百万円(前年同四半期比0.2%増)、営業利益は30百万円(前年同四半期比2.1%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 財政状態の変動状況

当第2四半期会計期間末における総資産は、14,905百万円となり、前事業年度末に比べ360百万円(2.5%)増加しました。これは主に、有価証券の減少500百万円などがありましたが、現金及び預金の増加311百万円、投資有価証券の増加264百万円、受取手形及び売掛金の増加252百万円などによるものであります。

負債は、2,516百万円となり、前事業年度末に比べ413百万円(19.7%)増加しました。これは主に、買掛金の増加282百万円などによるものであります。

純資産は、12,388百万円となり、前事業年度末に比べ53百万円(0.4%)減少しました。これは主に、その他有価証券評価差額金の減少29百万円、利益剰余金の減少23百万円などによるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物は、営業活動の結果、たな卸資産の増加等により187百万円、財務活動の結果、配当金の支払額等により88百万円それぞれ減少となりましたが、投資活動の結果、有価証券の償還による収入等により283百万円増加となったため、前事業年度末に比べ8百万円(0.2%)増加し、当第2四半期会計期間末には4,827百万円となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、引き続き厳しい事業環境が続き、売上高は卸売部門の取扱数量の減少などにより、平成28年5月12日に公表いたしました平成29年3月期の業績予想数値を下回る見込みであり、利益面においては売上の減少及び仕入、生産コストの上昇などにより営業利益、経常利益、当期純利益ともに予想数値を下回る見込みであり、修正いたしました。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

この結果、当第2四半期累計期間の営業利益、経常利益及び税引前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

(3) 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期会計期間から適用しております。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成28年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,257,859	2,569,249
受取手形及び売掛金	1,719,302	1,971,572
有価証券	3,600,000	3,100,000
商品及び製品	1,033,579	1,170,124
仕掛品	51,638	64,932
原材料及び貯蔵品	402,748	541,540
その他	67,320	48,275
貸倒引当金	△8,997	△9,912
流動資産合計	9,123,452	9,455,782
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	937,941	907,814
その他(純額)	735,715	729,848
有形固定資産合計	1,673,657	1,637,662
無形固定資産	13,991	12,466
投資その他の資産		
投資有価証券	3,251,397	3,515,656
その他	504,543	311,736
貸倒引当金	△22,341	△28,121
投資その他の資産合計	3,733,598	3,799,270
固定資産合計	5,421,247	5,449,399
資産合計	14,544,700	14,905,181
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,162,026	1,444,853
受託販売未払金	105,523	98,078
未払法人税等	51,495	27,013
賞与引当金	56,100	51,200
役員賞与引当金	13,370	—
その他	167,883	388,173
流動負債合計	1,556,398	2,009,318
固定負債		
退職給付引当金	446,315	427,054
その他	100,191	80,347
固定負債合計	546,507	507,402
負債合計	2,102,905	2,516,720

(単位:千円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成28年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,450,000	1,450,000
資本剰余金	1,045,772	1,045,772
利益剰余金	10,148,830	10,125,560
自己株式	△592,238	△592,350
株主資本合計	12,052,363	12,028,981
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	389,430	359,478
評価・換算差額等合計	389,430	359,478
純資産合計	12,441,794	12,388,460
負債純資産合計	14,544,700	14,905,181

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
売上高	20,124,643	19,722,373
売上原価	19,193,294	18,823,255
売上総利益	931,349	899,117
販売費及び一般管理費	873,780	865,678
営業利益	57,568	33,438
営業外収益		
受取利息	7,286	7,313
受取配当金	30,207	30,170
受取手数料	17,160	16,988
その他	9,392	8,600
営業外収益合計	64,046	63,073
営業外費用		
雑損失	1,545	827
営業外費用合計	1,545	827
経常利益	120,070	95,684
特別損失		
解約違約金	18,800	—
特別損失合計	18,800	—
税引前四半期純利益	101,270	95,684
法人税、住民税及び事業税	21,537	21,301
法人税等調整額	10,726	8,579
法人税等合計	32,263	29,881
四半期純利益	69,006	65,803

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	101,270	95,684
減価償却費	50,023	49,251
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△6,485	6,694
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△12,500	△13,370
賞与引当金の増減額(△は減少)	100	△4,900
退職給付引当金の増減額(△は減少)	2,404	△19,260
受取利息及び受取配当金	△37,493	△37,483
売上債権の増減額(△は増加)	△57,665	△257,545
たな卸資産の増減額(△は増加)	△335,139	△288,629
仕入債務の増減額(△は減少)	173,019	275,382
未払金の増減額(△は減少)	△40,888	10,519
未払費用の増減額(△は減少)	5,067	4,652
未払消費税等の増減額(△は減少)	△35,080	1,280
その他	△21,852	312
小計	△215,219	△177,410
利息及び配当金の受取額	37,114	38,098
法人税等の支払額	△25,276	△47,756
営業活動によるキャッシュ・フロー	△203,381	△187,067
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△200,000	—
有価証券の償還による収入	200,653	500,000
定期預金の預入による支出	△23,000	△24,000
定期預金の払戻による収入	424,000	221,200
有形固定資産の取得による支出	△9,436	△15,867
無形固定資産の取得による支出	△4,987	△2,550
投資有価証券の取得による支出	△301,305	△405,032
その他	13,000	10,011
投資活動によるキャッシュ・フロー	98,923	283,760
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△57	△111
配当金の支払額	△71,158	△88,532
財務活動によるキャッシュ・フロー	△71,216	△88,643
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△175,674	8,048
現金及び現金同等物の期首残高	5,401,569	4,818,970
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,225,894	4,827,018

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期累計期間(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	卸売部門	飼料工場 部門	食品加工場 部門	冷蔵工場 部門	不動産賃貸 部門			
売上高								
外部顧客への 売上高	18,692,955	889,643	190,356	296,420	55,268	20,124,643	—	20,124,643
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	46,254	—	4,282	52,407	—	102,945	△102,945	—
計	18,739,209	889,643	194,639	348,828	55,268	20,227,588	△102,945	20,124,643
セグメント利益 又は損失(△)	173,682	52,815	△23,389	27,937	31,545	262,590	△205,022	57,568

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額△205,022千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

II 当第2四半期累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	卸売部門	飼料工場 部門	食品加工場 部門	冷蔵工場 部門	不動産賃貸 部門			
売上高								
外部顧客への 売上高	18,483,167	645,385	231,779	306,639	55,401	19,722,373	—	19,722,373
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	47,885	—	14,466	56,240	—	118,592	△118,592	—
計	18,531,052	645,385	246,246	362,880	55,401	19,840,965	△118,592	19,722,373
セグメント利益 又は損失(△)	158,197	27,826	△15,332	35,013	30,888	236,593	△203,154	33,438

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額△203,154千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。